

「九州環境技術創造道場」 平成 20 年度受講生募集

～ 廃棄物技術の専門実務家の人財育成～

1 趣 旨

本市が進める「美しき世界の環境首都」づくりの一環で、優れた環境人財の創出を目的とする「九州環境技術創造道場」を昨年度に引き続き開催します。

この道場で育成する人財は、環境、特に廃棄物分野での幅広かつ実務的な専門知識を有する気概のある技術者であり、受講後は主として九州地域ひいてはアジアの廃棄物問題の総合的な技術者、環境ビジネスのリーダーとしての活躍を期待するものです。

講義では、「水文学」「地質学」「土壌学」「微生物学」「水処理工学」等の学問分野を基礎に、処分場管理・再生、環境修復などの技術について、国内外の最先端の情報を取り入れながら講師との合宿形式による少数精鋭の講義及び討論を行うこととし、エコタウン及び北九州地域のフィールドを最大限活用すると同時にコーディネーターとして的人格の陶冶に励むこととします。

講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の、大学・民間企業等の技術者を招き、知識偏重教育ではない双方向での討議・交流を行うことで、新たな視点でのビジネス創造や技術開発、環境政策に長けた人財育成が可能となります。

将来的には、循環型社会の構築に資する 3R (リデュース、リユース、リサイクル) や中間処理の技術など、多分野での人財育成も目指すこととしています。

2 特 色

主に九州、アジア地域での廃棄物分野の専門技術者を育成

北九州エコタウンを中心とした地域の諸施設を活用

一流講師陣による大学院レベルの質の高い講義

少数精鋭でのゼミ形式 (レポート、自主研究重視) による充実した講義内容

廃棄物・土壌汚染等に関する先進かつ実用性の高い技術の習得、施設見学

講師との双方向討議により発想力、考察力を育成

修了後には「九州環境技術創造道場」会員となり、会員間ネットワークの活用、講師陣への継続的相談が可能

3 これまでの成果

民間・行政から 86 名が受講し道場を修了 (19 名、 22 名、 19 名、 26 名)

道場修了後においても、修了生が新聞 (九州環境技術創造道場新聞) を作成するなど、相互交流を継続

道場修了後、講師と受講生が所属する企業との間で共同研究が実現

4 概 要

- (1) 名 称 「九州環境技術創造道場」
- (2) テーマ 「廃棄物管理を中心とした総合環境技術」
- (3) 主 催 北九州市
- (4) 道場長 花嶋 正孝（福岡大学名誉教授）
- (5) 運 営 特定非営利活動法人 環境創造研究機構
- (6) 会 場 北九州ハイツ
北九州市八幡西区的場町 1 - 1
TEL 093-631-5582
- (7) スケジュール 平成 20 年 7 月 25 日(金) ~ 7 月 27 日(日) 第 1 回講義(開講)
平成 20 年 8 月 29 日(金) ~ 8 月 31 日(日) 第 2 回講義
平成 20 年 10 月 30 日(木) ~ 11 月 1 日(土) 中国視察(杭州)
平成 20 年 11 月 14 日(金) ~ 11 月 16 日(日) 第 3 回講義
平成 21 年 1 月 30 日(金) ~ 2 月 1 日(日) 第 4 回講義(閉講)
- (8) 受講にかかる費用
受講料 80,000 円 / 年 (全 4 回分)
(受講料は一括納付制[一部受講不可])
宿泊費(北九州ハイツ) 17,000 円 / 回程度 [2泊3日全6食]
現地視察費 交通費・宿泊費等(中国視察[予定])
その他 会場(北九州ハイツ)までの交通費等
- (9) 受講資格 主として九州地域の環境関連企業に従事する若手技術者及び自治体職員等。
- (10) 募集人員 20 名程度
- (11) 申込方法 別紙の受講申込み表に必要事項を記入のうえ、郵送または FAX にて事務局へ提出。
- (12) 申込期間 平成 20 年 5 月 2 日(金) ~ 平成 20 年 5 月 27 日(火)
- (13) その他 受講生の決定にあたっては、提出された受講申込み表をもとに年齢、経歴、意欲等について道場長、運営委員が審査し、決定された受講生には後日受講料の納付時期、納付先等を連絡します。また、申込者全員に審査結果を通知します。

事務局

特定非営利活動法人 環境創造研究機構
〒810-0041 福岡市中央区大名 2-10-4 D 棟 807 号
TEL/FAX 092-725-9300 担当：古賀
北九州市環境局環境産業政策室
〒803-8501 北九州市小倉北区城内 1-1
TEL 093-582-2630 FAX 093-582-2196
担当：肥塚、河原

平成20年度 九州環境技術創造道場 講義日程表

日程	コマ	時間	第1回 H20.7.25-27 最終処分場	第2回 H20.8.29-31 土壌汚染・有害物質	第3回 H20.11.14-16 最終処分場	第4回 H21.1.30-2.1 新技術・灰処理、まとめ	
1日目	開講式						
	午前	1	10:30	1 持続型社会概論 【岡本】	1 土壌汚染の現状 (土壌汚染の現状、モニタリング等) 【伊藤】	1 浸出水処理システム 【牛越】	1 これからの最終処分場 (WOW・早期安定化技術・再生・資源保管) 【樋口】
	午後	2	13:00	2 最終処分場システム 【樋口】	2 法律 (土壌汚染における紛争事例-法律の解釈等) 【山本】	2 じゃ水工 【押方】	2 クローズドシステム処分場 【押方】
		3	14:40	3 廃棄物工学基礎 地盤工学 【渡辺】	3 汚染土壌の調査・対策 (調査法、対策、新技術) 【伊藤】	3 モニタリング (ガス、粉塵等) 【長野】	3 塩類対策と再利用 【牛越】
		4	16:20 17:50	水文地質及び物理探査(地下水) 【渡辺】	4 汚染土壌と微生物 (汚染とDNA、バイオ浄化) 【谷口】	4 既設最終処分場の適正化 【興侶】	4 廃棄物物流 【川崎】
グループ討議		グループ討議					
2日目	午前	5	8:30	③演習 【渡辺】	5 地下水汚染 (地下水理、汚染モニタリング、解析例) 【伊藤】	5 廃棄物処分場の維持管理 【上田】	5 溶融、焼成 【長田】
	午後	6	10:10	環境化学(バイオ、POPs等) 【堀井】	6 不法投棄等による環境汚染 (現状、調査・対策、支援体制等) 【和田】	6 海面埋立 【島岡】	6 中国の廃棄物管理 (都市ごみ処理の現状と今後の方向性、埋立ガスCDM事業について) 【龍】
		7	12:40	環境土壌学 【島岡】	7 原状回復事業 【猿田】	7 現地見学及び講義 ・新日鐵北九州環境技術センター ・福岡大学資環研 ・廃棄物研究施設 ・その他実証研究エリア施設 【羽島、樋口】	7 韓国の廃棄物管理 (都市ごみ処理の現状と今後の方向性) 【李】
		8	14:20	⑥重金属類の処理 【細田】	8 リスクマネジメント (企業リスク、情報開示、土地売買等) 【山本】		8 プレゼンテーション (受講生論文発表)
		9	16:00 17:30	⑦演習 【堀井、島岡、細田】	9 演習 事例対応、企業リスクマネジメント 【山本】		【運営委員】
グループ討議		グループ討議					
3日目	午前	10	8:30	4 埋立地の安定化 安定化システム(1) 【島岡】	事例対応・調査、対策と技術 【伊藤】	8 立地と環境アセスメント 【樋口】	9 討議 【運営委員】
	11	10:10	安定化システム(2) 【堀井】	10 討議 【花嶋、伊藤】	9 討議 【花嶋、樋口】		
	解散		解散				解散

*中国杭州視察(平成20年10月30日~11月1日)

九州環境技術創造道場 講義概要

第1回 最終処分場Ⅰ (H20.7.25~H20.7.27)

【講師名】

1 持続型社会概論	【岡本】
現在日本の社会ニーズからみた「ストック型社会転換の必要性」について学ぶ。ヨーロッパの先進諸国は日本より収入が少ないものの、生活にはゆとりが感じられる。この原因について検証し、人口減少の日本が今後どのように進むべきか提言をおこなう。	
2 最終処分場システム	【樋口】
最終処分場の機能、施設の機能を学び、廃棄物管理システムの中での最終処分場の位置づけ、最終処分システムのなかでの諸施設の位置づけを理解する。また循環型社会における最終処分場のあり方について考える。	
3 廃棄物工学基礎	
地盤工学	【渡辺】
処分場が立地する地盤や地形の成り立ち及び岩盤や堆積物の物性や性質について、構造物建設目的とリスク対応目的の両面から解説し、処分場建設に際しての地盤工学上の留意点を学ぶ。	
水文地質及び物理探査(地下水)	【渡辺】
最終処分場の計画・建設に当たっては、地質と地下水との関連および地下水の挙動を理解して、施工、防災、維持管理に活用する事が重要である。ここでは、水文地質学の一般を紹介すると共に、「処分場建設と地下水」について、数々の事例から考慮すべき地下水問題について学ぶ。	
演習	【渡辺】
地形図をもとにした最終処分場の選定、物理探査結果の読み方、地下水水質、地下水流れについて演習を行う。	
環境化学(バイオ、POPs等)	【堀井】
最終処分場の浸出水処理対策を検討する際に必要な環境化学の基礎について解説する。併せて、埋立廃棄物の化学性状や浸出水質の経年変化を理解するための基礎知識(生物化学等)についても学ぶ。また、実務面で有用な有害化学物質(重金属、D X N s等微量有害物質)の特性についても概説する。	
環境土壌学	【島岡】
埋立廃棄物は、生物・化学・物理学的作用を受けて安定な性状へと変化し、この過程は土壌化に通じる。ここでは、廃棄物の安定化を理解する上で必要な土壌の意義と役割、土壌の有機物、土壌の生物性・化学性・物理性について学ぶ。	
重金属類の処理	【細田】
重金属類を含む廃水、灰、土壌などを対象に、現状と事例に基づき説明する。さらに、近年、特に問題となっているフッ素、ヒ素、セレン等のアニオン種の処理についても説明を行う。	
演習	【堀井、島岡、細田】
廃棄物埋立地で見られる物理学・化学、さらには土壌学に関する現象の中で、定式化されているものを取り上げ、演習問題を解くことによって理解を深める。また、環境化学の講義で説明した中で、最終処分場分野に必要な化学反応・生物反応等の基礎について、また新しく重金属の除去、特にフッ素、ヒ素、セレン等の除去技術の具体的な演習問題を行って理解を深める。	
4 埋立地の安定化	
安定化システム(1)	【島岡】
有機物主体の埋立廃棄物、焼却残渣等の無機物主体の埋立廃棄物では、安定化システムが大きく異なる。ここでは、有機物の微生物分解のメカニズム、炭素・窒素の循環、無機物の溶出機構など、埋立地の安定化において見られる様々な現象を学ぶ。	
安定化システム(2)	【堀井】
管理型最終処分場における安定化とは何か?安定化を促進するためにはどのような方法があるのか?等について、安定化促進実験の結果を事例として示しながら、埋立地の安定化手法と廃止促進のあり方を学ぶ。	

第2回 土壌汚染・有害物質(H20.8.29~H20.8.31)

【講師名】

1 土壌汚染の現状(土壌汚染の現状、メカニズム等)	【伊藤】
土壌汚染の原因から地盤中での拡散メカニズムを概説し、日本を中心とした土壌汚染の現状とビジネスとしての動向について解説する。	
2 法律(土壌汚染における紛争事例-法律の解釈等)	【山本】
土壌汚染対策件数の増加に伴い紛争事案も増加している。紛争に係る法律は土壌汚染対策法に限られておらず、むしろ土壌汚染対策法上の紛争は少ないといえる状況にある。これらの現状を事例に基づいて説明する。	
3 汚染土壌の調査・対策(調査法、対策、新技術)	【伊藤】
土壌調査の課題と方向性、汚染土壌の対策工法の考え方、新技術について解説する。また、併せて今後の土壌汚染浄化技術の方向性についての意見交換を行う。	
4 汚染土壌と微生物(汚染とDNA、バイオ浄化)	【谷口】
硫化水素は硫酸還元菌、アンモニアは硝酸還元菌、メタンはメタン生成菌と、それぞれのガス産生に微生物が関与していることは古くから知られており、また酸化分解する菌も存在する。ここでは、土壌の複雑な細菌叢を培養せずに一度に検出する方法を学び、廃棄物処分場のガス対策に生かす。	
5 地下水汚染(地下水理、汚染メカニズム、解析例)	【伊藤】
地下水理の基礎、汚染物質の種類と拡散の基本的性質などを概説し、基本的なメカニズムを中心に評価・予測を行うためのシミュレーションの解析例などについて解説する。	
6 不法投棄等による環境汚染(現状、調査・対策、支援体制等)	【和田】
不法投棄や不適正処分場など、廃棄物の不適正処理に起因する環境汚染問題についての現状を学び、その調査方法や原状回復に向けた対策方法、支援体制等について、事例を交えて解説する。	
7 現状回復事業	【猿田】
産業廃棄物の大規模不法投棄等の発生メカニズム及び経済的損失。排出事業者による不法投棄等の未然防止方策。不法投棄等における生活環境保全上の支障の考え方とその対策手法の選定。また、支障を除去するために講ずべき効果的で効率的な措置による生活の環境保全のキーワードなどについて解説する。	
8 リスクマネジメント(企業リスク、情報開示、土地売買等)	【山本】
土壌・地下水汚染リスクに関して、土壌汚染対策法と企業リスク、情報開示のポイント、土地売買における問題点・注意事項について、現場経験に基づく具体的事例に重点を置いた解説を行う。	
9 演習	
演習 (事例対応、企業リスクマネジメント)	【山本】
土壌・地下水汚染の具体的事例に基づき、基本事項を踏まえ、企業リスクマネジメントの問題点、あり方などについて考える。	
演習 (事例対応・調査、対策と技術)	【伊藤】
これまでの講義内容を踏まえ、現実の問題に近いケースを設定し、土壌汚染問題に対する技術的対応などについて考える。	
10 討議	【花嶋、伊藤】
第2回の課題についての討議や、最終講義での論文発表におけるテーマの決定等についての議論、相談を行う。また具体的な土壌汚染例および不法投棄現場をベースにしたリスクマネジメントから技術的対応について共に考える。	

第3回 最終処分場Ⅱ (H20.11.14~H20.11.16)

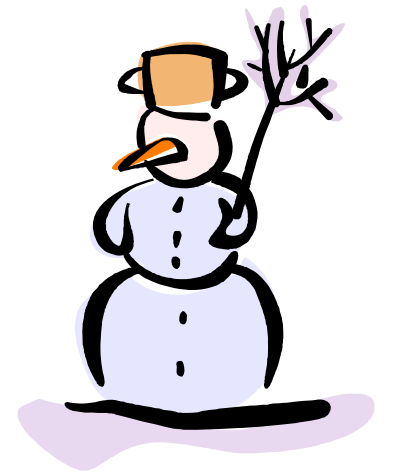
【講師名】

1	浸出水処理システム 【牛越】 管理型処分場より排出される浸出水の処理システム(集水、取水、調整設備、導水設備、水処理設備)等に関して解説すると共に、調整設備、浸出水処理設備の規模の決定法およびBOD、COD等の汚濁物質を処理し環境負担を低減する浸出水処理技術について学ぶ。
2	しゃ水工 【押方】 埋立地には、浸出水が外部に流出して地下水等を汚染しないよう難透水性の層や膜が設けられている。ここでは、遮水工のあり方、技術基準、計画・設計・建設・維持管理における留意点などについて学ぶ。
3	モニタリング(ガス、粉塵等) 【長野】 ガス等のモニタリングを実施する場合、モニタリングの位置 モニタリング孔の設置 モニタリングの時期・測定器具等の3点が重要であることより、これらの具体的な事例を基にモニタリング技術を学ぶ。
4	既設最終処分場の適正化 【興梠】 一部の産業廃棄物最終処分場問題に端を発した住民不安の拡大等を背景に、最終処分場の信頼回復を目的として平成10年に技術基準の強化、維持管理基準及び廃止基準の明確化等、廃棄物処理法の抜本的な改正がなされた。このような背景の下で、旧法に基づく既設処分場の適正化と、新法を遵守した新たな処分場建設に向けて大野城市が実施した調査・設計から工事完成までの具体的な取組みについて紹介する。
5	廃棄物処分場の維持管理 【上田】 廃棄物処分場は、計画・設計・施工・維持管理・閉鎖・廃止を経て跡地利用となるが、それぞれが機能して初めて安全性が確保される事になる。これらをサポートするため、各方面で研究が進められているが、残念な事ではあるが、維持管理から廃止までにおいて事故が散見されている。これらの事象は、計画から施工までの成果が維持管理以降に継続していない事、そして維持管理の出来る人材育成に隙間が出ていることと考えられる。維持管理の重要性と人材育成のための機能検査について理解を求める。
6	海面埋立 【島岡】 海外ではあまり存在しない、我が国の固有とも言える海面埋立処分である。陸上埋立処分と比較しながら、(1)海面埋立処分の社会資本としての位置づけ、(2)海面埋立処分の安定化メカニズム、(3)解決すべき課題等について述べる。
7	現地見学及び講義 【羽島、樋口】 北九州エコタウンにおいて、現在行われている技術開発・実証研究などについての講義後、視察を行う。
8	立地と環境アセスメント 【樋口】 環境アセスメントを進めるにあたって環境要素と調査項目等についての講義と、インパクトマトリックス作成などの演習を行う。
9	討議 【花嶋、樋口】 第1回、第2回の講義で行った内容及び今後の講義等についてテーマを決め討議するとともに、最終回のプレゼンテーションに向けた資料作成、発表方法についての意見交換等を行う。

第4回 新技術・灰処理、まとめ (H21.1.30~H20.2.1)

【講師名】

1	これからの最終処分場 (WOW・早期安定化技術・再生・資源保管) 【樋口】 埋立前処理、既設処分場早期安定化、資源化処理のための廃棄物洗浄システムについて研究開発状況、実施例について解説する。
2	クローズドシステム処分場 【押方】 クローズドシステム処分場は埋立地の上部に覆蓋を設け、景観や地域環境に配慮するとともに埋立地内外の各種要因や処分場の機能を制御できる施設である。ここでは、このシステムを用いた処分場の実施例から現状の技術及び将来のあり方について学ぶ。
3	塩類対策と再利用 【牛越】 高濃度の塩類を含む浸出水、焼却灰洗浄排水等を脱塩処理した場合、脱塩処理水と共に濃縮排水が発生する。ここでは、濃縮排水中に含まれる塩類を電解法、乾燥精製法等により工業的に再利用する技術について学ぶ。
4	廃棄物物流 【川崎】 廃棄物資源の最適な物流システムについては十分な具現化が図られていない。トラック中心の廃棄物(静脈)輸送に加えて、JR貨物、船舶輸送等を組み合わせた、正にCO2削減も視野に入れた輸送モードの最適化が必要である。エコタウン事業の経験も踏まえ、持論を展開する。
5	溶融、焼成 【長田】 廃棄物を焼却や溶融処理したあとの残渣を再利用するために、適切な溶融処理を行えば再利用可能なスラグとする事が出来る。ここでは、廃棄物の残渣を有効利用するための溶融処理方法について学ぶ。
6	中国の廃棄物管理(都市ごみ処理の現状と今後の方向性、埋立ガス CDM 事業について) 【龍】 中国の廃棄物処理の現状、特に中国の第11次五ヶ年計画の重点である循環経済と環境保全に関連する環境ビジネスとしてCDM事業、リサイクル事業、各種PFI事業展開について講義する。
7	韓国の廃棄物管理(都市ごみ処理の現状と今後の方向性) 【李】 韓国の廃棄物管理の現状と今後の方向性について、また、最近韓国で活発に行っている廃棄物埋立地の再生事業をはじめ、不適正処分場の整備事業、廃棄物のMBT事業、CDM事業などの動向を紹介する。
8	プレゼンテーション 【運営委員】 受講生論文発表
9	討議 【運営委員】 全講義を振り返っての総括的な討議を行う。またこの道場を通じて得た知識、人脈の活かし方等についての議論、意見交換を行う。



九州環境技術創造道場スタッフ

< 道場長 >

花嶋 正孝

福岡大学名誉教授

北九州市顧問、中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会長
前廃棄物学会会長、福岡県リサイクル総合研究センター長ほか
CS（加圧システム）研究会、LS（最終処分場システム）
研究会会長等、数多くの委員会委員を務める。



< 運営委員 >

伊藤 洋

北九州市立大学大学院教授

工学博士、技術士（総合技術管理・建設）。ゼネコン・コンサルを経験。「土壌学」「地下水理学」「水循環」で活躍。「地下水環境・資源マネジメント」「土壌汚染と企業リスクマネジメント」など著書・論文多数。



樋口壯太郎

福岡大学大学院教授

工学博士、技術士（衛生工学）
「最終処分場安定化促進研究会」代表
「埋立地再生総合技術研究会」代表
「WOW システム研究会」幹事長等で活躍
著書「最終処分場の計画と建設」ほか多数。



押方 利郎

福岡大学研究推進部教授

工学博士、技術士（衛生工学）
「廃棄物学会」理事。福岡大学
大牟田産学連携推進室担当として
地元企業との産学官連携による
共同開発のコーディネートを務める。



堀井 安雄

クボタ環境サービス株式会社

工学博士、「廃棄物最終処分場環境
保全対策調査検討会」委員ほか数多
くの委員を務める。香川県豊島の高度
廃水処理施設の技術監理責任者。



島岡 隆行

九州大学大学院教授

工学博士、「福岡県環境審議会」委員
「現状回復支援事業技術検討委員会」
委員長、土木学会、廃棄物学会、
水環境学会、地盤学会等、数多くの
委員会委員を務める。



井上 正治

北九州市環境局環境科学研究所長

「日中友好環境保全センター」にて、
JICA 長期派遣専門家として中国の
環境改善に携わる。「土壌汚染対策
調査検討委員会」委員、「アジア資源
循環推進に係る国際協力のあり方
検討会」委員など。



< 講師陣 >

長野 修治

福岡大学 環境保全センター 事務室長
「廃棄物関連環境保全対策調査」
検討委員、「廃棄物最終処分場
における埋立物安定化に関する調査」
等、数多くの委員会委員を務める。



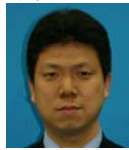
羽島 康文

新日鉄エンジニアリング(株)技術本部技術開発研究所
北九州環境技術センター所長
これまで同社の水処理部門、環境修復
技術部門を歴任し、数々の新技術・
装置を開発。



和田 卓也

(株)建設技術研究所 大阪本社 地圏環境部 砂防室
技術士(総合技術監理・応用理学)
全国で多数の大規模産廃不法投棄事案
の調査・対策に従事。
著書「有害廃棄物による土壌・地下水
汚染の診断」(2002)環境産業新聞社(共著)



長田 守弘

新日鉄エンジニアリング(株)環境ソリューション事業部 部長
技術士(衛生工学部門)、環境カプセル
(事業者部門)、日本環境衛生施設
工業会技術委員長。廃棄物学会理事。
同社製鉄分野の設備設計、廃棄物処理
施設分野の技術開発、計画設計部門を歴任。廃棄物処理
LCA 研究、埋立地再生研究会等の研究会にも参画。



牛越 健一

株式会社ウエスコ技師長(環境設計)
工学博士、技術士(総合技術監理、
上・下水道、衛生工学) 膜分離技術を
応用した浸出水処理装置、ハゲソイヤー-法
による DXNS 分解装置等を開発。



山本 勇

アースクリエイト(株)理事
地層診断・修復簡易化研究会創始
環境経営学会理事
著書「土壌・地下水汚染と対策」、
「土壌汚染の現状」など多数。



渡辺 俊一

日本技術開発(株)リサーチ・エンジ
ニアリング事業部西日本室
技術士(応用理学)
地盤工学会、応用地質学会等に所属
最近では、シミュレーションを用いた最終処分場から
の漏水や地下水汚染についての業務を行っている。



上田 滋夫

太陽工業株式会社 技術統括本部長
NPO・LS 研理事、NPO・LS 研認定委員長、
NPO・LS 研広報委員長、CS 研幹事、
CS 研総務委員長、CS 研特許副委員長、
日本遮水工協会会長を務める。



細田 和夫

ミヨシ油脂株式会社 取締役執行役員
油化事業本部長
油化学会、日本化学会等に所属。



興侶 寿徳

大野城市総務部財政課
契約・検査係長



谷口 初美

産業医科大学医学部微生物学教授
医学博士、薬学修士
専門：病原細菌の分子遺伝学
日本細菌学会 九州支部長、日米
医学協力研究会専門部会 委員、「ごみとDNA」
研究会委員等、数多くの委員会委員を務める。



龍 吉生

上海日技環境技術コンサル有限公司董事長、
兼職教授、重慶大学名誉教授、農学博士、
技術士（衛生工学、総合技術管理）
PE(APEC) 廃棄物リサイクル・焼却溶融事業のコンサルティ
ング、CDM 事業、PFI 事業等を展開。



川崎 順一

日鐵運輸(株)常務取締役物流事業部長
昭和 47 年 4 月新日本製鐵(株)入社。
平成 8 年 6 月に総務部開発企画
グループ部長となり、エコタウン事業
の当初から参加。平成 15 年 6 月、
新日鐵退職後、第 3 セクターひびき灘開発(株)専務
取締役を経て、平成 17 年 6 月、日鐵運輸(株)常務取
締役総務部長に就任。



岡本 久人

次世代システム研究所長、次世代システム研究会、
ECO-ECO 研究会顧問、パードライフ・アジア理事
これまでに新日鐵、同ロー事務所駐在員、
IT関連企業、環境関連企業を経て現在に至る
著書「野鳥調査マニュアル/定量調査の考え方と
進め方」(1990)、「45 分でわかる未来へのシナリオ『ストック型社会』」
(2007) など多数。



猿田 忠義

茨城県庁税務課査察室 係長
(前 財団法人産業廃棄物処理事業振興
財団適正処理推進部次長)
適正処理推進基金による都道府県等における代執行の
助言及び特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関
する特別措置法に基づく実施計画に係る助言に携わ
る。



李 南 勳

韓国安養大学環境工学科教授
工学博士、「韓国廃棄物学会」理事、
「有機性資源学会」理事、
韓国環境部廃棄物処理技術支援団委員、
首都圏埋立地管理公社運営委員、韓国環境資源公社設計委員会
委員などを務める。埋立地の安定化指標、バイオリアクタ-型
埋立技術、不適正処分場の整備関連の研究論文多数。



垣迫 裕俊

北九州市企画文化局長、北九州市立大学ビジネススクール特任教授
技術士（総合技術監理・建設）
環境カウンセラー（事業者部門）
これまでに国際協力、エコタウン事業、
PCB 処理事業、廃棄物減量等、
北九州市の環境政策全般を推進。



平成 19 年度道場での講義風景等



花嶋道場長



少数精鋭の講義



福岡大学資源循環・環境制御システム研究所見学



国内有数の講師陣による充実した講義



韓国視察



受講生間での討議

九州環境技術創造道場 受講申込み表

受講者氏名等

ふりがな
氏名

性別・年齢

男 女 (歳)

所属団体

部署・役職

業種^(注)

住所

〒

TEL

FAX

E-MAIL

緊急連絡先(携帯電話など)

TEL

E-MAIL

(注)業種：簡潔にお書き下さい。例)コンサルタント、廃棄物処理、自治体等

受講希望者が多数の場合、以下の内容により選考いたしますので、できるだけ詳しく記入をお願いいたします。

1 これまでの経歴 (最終学歴、職歴など。特に廃棄物処理・管理、最終処分場に関する経歴については詳細に記述のこと)

2 受講により習得したい主な課題

3 受講修了後における技術活用方策

なお、上記の個人情報については、本道場受講における選考及び連絡等においてのみ取扱い、その他の目的には一切使用致しません。